

有意味かなひろいテスト

(ネモト)

<p>テストの標的</p>	<p>本検査は、日立の光トポグラフィ（脳血流代謝測定装置）によって、前頭前野の脳賦活部位を確認した神経心理テストです。本検査は「眉間部位」（ブロードマン10野～11野）と、「左こめかみ部位」（ブロードマン46野）の2カ所を活性化し、同部位に局在する脳高次機能を測定します。</p> <p>本検査は前頭前野の「注意力」や「社会性」を測定することから、高校生や大学生の進路指導や、企業の入社試験に利用できる他、高齢者の「認知症」のスクリーニング・テストとしても、高い効果を発揮します。</p>
<p>用紙・用具</p>	<p>検査用紙 品切れ中 手引 品切れ中</p>
<p>適用年齢</p>	<p>15歳～89歳</p>
<p>実施時間</p>	<p>5分（本検査2分間＋意味把握問題）</p>
<p>内 容</p> <p>画像ボタン</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「かなひろい得点」は「注意力」（注意を集中する能力）や、「自己抑制力」（我慢する能力）等の混合した前頭前野の脳高次機能を測定しています。5歳きざみの年齢に対応した偏差値が算出できます。偏差値は「元気があるか」や「人の話がきちんと聴けるか」という解釈が当てはまります。 2. 「正答率%」は「人に気を遣えるか」という解釈がよく当てはまります。 3. 「意味把握率（%）」は「短期記憶」の指標で、「仕事に身が入るか」という解釈がよく当てはまります。
<p>参考文献</p>	<p>「有意味かなひろいテストの意義」2000年 根本樹宏 第2回全国早期痴呆研究会 早期痴呆の予防・治療対策最前線 真興交易（株）医書出版部</p> <p>「有意味かなひろいテストの解釈」2001年 根本樹宏 第3回全国早期痴呆研究会 早期痴呆の予防・治療対策最前線 真興交易（株）医書出版部</p>